

製品名: MEK キナーゼ 3 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13793**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	71kDa

抗原情報

遺伝子名	MAP3K3
別名	MAP3K3; MAPKKK3; MEKK3; Mitogen-activated protein kinase kinase kinase 3; MAPK/ERK kinase kinase 3; MEK kinase 3; MEKK 3
遺伝子 ID	4215.0
SwissProt ID	Q99759
免疫原	抗血清はヒト MAP3K3 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 101-150

背景

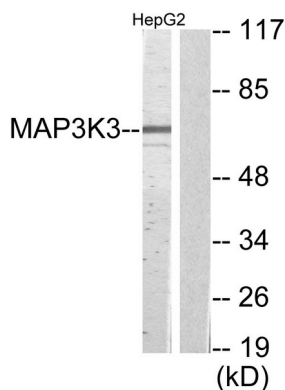
この遺伝子産物は 626 アミノ酸からなるポリペプチドで、マウス Mekk3 と 96.5%同一です。その触媒ドメインは、マウス Mekk2、

タバコ NPK、酵母 Ste11 など、他のいくつかのキナーゼの触媒ドメインと密接に関連しています。ノーザンブロット解析の結果、普遍的に発現していると思われる 4.6kb の転写産物が明らかになりました。このタンパク質は、SEK と MEK1/2 をそれぞれ活性化することにより、ストレス活性化タンパク質キナーゼ (SAPK) 経路と細胞外シグナル調節タンパク質キナーゼ (ERK) 経路を直接制御します。p38 経路は制御しません。共トランスフェクションアッセイでは、核因子 κ B (NF κ B) 依存性レポーター遺伝子からの転写を促進し、SAPK 経路における役割と一致しています。異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが観察されています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。補因子: マグネシウム。酵素調節: Thr-530 のリン酸化によって活性化される。機能: タンパク質キナーゼシグナル伝達カスケードの構成要素。NF- κ B、AP1、DDIT3 転写調節因子の活性化を媒介する。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。STE Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。MAP キナーゼキナーゼキナーゼサブファミリー。類似性: 1 つの OPR ドメインを含む。類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含む。サブユニット: 多分子複合体において上流の活性化因子と下流の基質の両方に結合する。MAP2K3、RAC1、CCM2 との複合体の一部。MAP2K5 および SPAG9 と相互作用する。

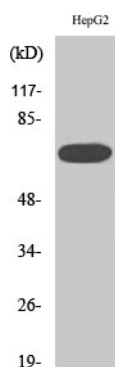
研究分野

アクチンダイナミクスの制御; SAPK_JNK; 細胞増殖; 幹細胞経路; B 細胞受容体

画像データ



MAP3K3 抗体を用いた HepG2 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 2000 に希釈した MEK キナーゼ 3 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析